

「新聞読んで」感想文コンクール

受賞作品を紹介

私は、この記事をよんで、母の仕事は素晴らしいと改めて感じました。

今、コロナで医療従事者が注目されています。私の母は看護師で毎日病院に行く姿を見て、もし母がコロナになったら…。という不安がありました。ですが、この記事を見て、どれだけ医療従事者が感謝されているかが分かりました。不安はまだあるけれどもとても自慢の母です。

医療従事者の方々は、コロナが急速にはやり出して、とても大変になったと思います。ですが、病院へこの前、行った時に、医療従事者の方々は笑顔でした。私は、いい意味で怖いなと思いました。絶対、疲れているのに、一切、疲れた顔を見せない、とても感動しました。

私の母の仕事がどれだけ大変なのかわかりません。だけど、母は家にいる時、一つも疲れた顔を見ません。必ず、笑顔で「おかえり」と言ってくれます。そして、部活の洗濯物や、制服を文句言わず、干してくれたり、部活の試合などには、必ず来て、応援してくれます。

私が母にずっと言われている事は、「どんな時も笑顔。」です。



私の自慢

内灘町内灘中2年 高島 帆乃佳

これは母と私の合言葉です。この合言葉を守るように、私はいつも「笑顔」を意識しています。でも、ものすごく落ち込んだりした時は、笑顔になれません。こんな時、私は必ず、母と沢山会話します。母と話す時、なぜかはわからないけど自然と笑顔になれます。

私の家族は、笑いが絶えません。笑いが絶えないのも母や父のおかげかもしれません。私は、とても母や父に助けられているな。と心から思います。

私は改めて、母はヒーローだなと思いました。世界から見ても、私から見ても、間違いなくヒーローです。誰かの役に立つ、という事は、こんなにも素晴らしい、誇らしい事なんだと母を通して感じました。

私と母は、よく、似ていると言われます。でも、私はまだまだ、母と似ている、と言われるしんどいことはありません。大好きな母と似ている。と言われて心から嬉しくなれる日まで沢山、努力をしたいです。

私も誰かのヒーローになれるように、精一杯「笑顔」で頑張りたいです。そして、母と一緒に仕事をするのが夢です。



私には尊敬する人がいる。その人は、人の悪口は決して言わず、いつもニコニコしている。それは、ある種の強さだと私は思っている。その人の強さと、記事に出てきた女優さんの、悪口を言われ傷ついた心にくまぐたをし、平気なふりをして乗り越えようとする強さは、どちらも優しい強さだと思う。

もし、私が悪口を言われ傷つけられたら、きつと悪口を言った人の悪いところばかりを探してしまうのだと思う。もしかしたら、それを口に出してしまうかもしれない。しかしそれでは悪口を言った人と、していることが一緒だ。では、そんなときどうすればいいのか。私は相手を傷つけてしまっていないか。この記事を読み、改めて考えさせられた。

「嫌なことは嫌と言えればいい。」そんな簡単なことではないと思う。たしかに自分の気持ちを伝えることで、相手はわかってくれて、反省してくれるかもしれない。それも一つの優しさなのだと思う。しかし、みんながみんな嫌なことを嫌と言えるわけではない。だから、思ったことを何も考えずにそのまま口に出してはいけない。自分の気持ちは伝えるように、でも相手が傷つかないように言いたい方を考えながら話す必要がある。



優しい強さが救うもの

内灘町内灘中2年 ひゃくまん 百万 かりん 花梨

ある。この話し方は頭を使わず、とても疲れる。それでも相手のためにそれができる人は、優しい強さをもった人だと思う。

私が思う優しい強さ。それは、良いところを見つけ、伝えられること。相手の気持ちを考えて、話したり行動したりできること。そして、それを匿名というベールに包まれた時でも続けられること。他にもたくさんあるが全てに共通することは、自分を大切にしながらも、相手を強く思いやることができる人にしかできないことだということだ。

今、世界中の人達が不安でいっぱいだと思う。だから、優しい強さが必要なのだ。一人一人のそれは小さいものでも、みんなの優しい強さが集まれば、とても大きな幸せのかたまりになる。幸せのかたまりでいっぱいの世界になってほしい。そうなれば、きつと乗り越えられることがたくさんあるはずだから。

言葉を相手に伝えるのにかかる時間は一瞬だ。しかし、嫌な言葉でも嬉しい言葉でも、言葉は一生心に残るものだと思う。私は、相手の心に平気で嫌な言葉を残し、傷つけるような人にはなりたくない。優しい強さをもつことで、みんなを笑顔にできるような人になりたい。



祖母を支えたい

内灘町内灘中2年 小室 日和

志賀町で「能登スイカ」の出荷が始まった。という記事でした。

私の祖母も志賀町でスイカを生産しています。家族みんな祖母の作るスイカが大好きです。毎年、祖母が協力して作ってくれていました。しかし四年前に祖父の体から癌が見つかりました。病氣と知っていても祖父は表情を変えず、畑仕事を必死に頑張っていました。本当に強い人だったなと思います。そして、癌が見つかって一年後に祖父が亡くなりました。

「祖父無しで田植えや畑仕事はできるのか」と不安や心配はありましたが、祖母は「やってみる」と前向きに決意しました。しかし想像以上に大変で、なかなか上手くないかない。と祖母は言います。祖父が亡くなってか

ら三年間、祖母は大変な日々を乗り越え、腰や膝を悪くしてまで頑張っていました。ですが、ふとした時に「おじいちゃんがいたら」と思ってしまうのです。それだけ祖父の存在は大きかったんだなと思います。

そんな祖母に大きな負担をかけるないようにするのが私たち家族の役目なのです。そのため春には、畑や田んぼの手伝いに行きました。とても喜んでくれました。祖母は、「きつと天国にいるおじいちゃんも喜んでくれるはずだよ。」と、にっこり笑って励ましてくれます。祖母の言葉にいつも救われます。祖母はとても我慢強いので、一人で抱え込んでいないか心配になります。ですが、祖母の笑顔を見ると安心します。どんな状況であっても全力を尽くす祖母の

姿は本当にかっこいいなと思います。自慢の祖母なのです。

気づけば、そんな祖母から今までたくさん事を教わり、勇気をもらってきたんだなと改めて感じました。それは本当に幸せなことです。祖父がいない祖母の寂しさを埋めてあげるために私たち家族ができること、それは少しでも近くで寄り添ってあげることです。ですが、祖母との時間はあまり多くありません。だからこそ会った時には、たくさんお話をしたり、一緒においしいご飯を食べたりして祖母との時間をもっともっと大事にしたいです。そして、祖母の作ってくれた大きなスイカをはやくみんなで食べたいなと思います。これから先も家族全員で大切な祖母を支えていきます。

大切な祖母を支えていきます。

佳作

- 「心の共有の大切さ」
- 「安楽死の意味」
- 「お父さんとの約束」
- 「レジ袋有料化から考えたこと。」
- 「人との関わり・距離」
- 「李氏から学ぶ石川の偉人」
- 「『二つの病、揺れる米』を読んで」
- 「新聞が私に伝えてくれること」
- 「夢と現実」
- 「ありがとうを奏でる時」
- 「おぼくさん」
- 「『ありがとう』から生まれるもの」

吉田紗久 (内灘町内灘中1年)
 石本依与 (内灘町内灘中2年)
 武藤陽香 (内灘町内灘中2年)